

行政視察報告書

令和6年 2月15日

長浜市議会議長 中川 勇 様

長浜市議会議員 千 田 貞 之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和5年全国市議会議長会研究フォーラムin北九州市
2. 視察期間 令和5年10月25日(水)～10月26日(木)
3. 視察場所及び目的

場所 西日本総合展示場新館1階

基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」

講 師 大正大学教授兼地域構想研究所長 片山善博氏

4. 調査内容感想等

・視察・研修の目的

○全国より約2400名余りの参加者が集う。全国の市議会議員向けの研究フォーラムを受け今後の市議会活動に生かす。

・視察内容

今回、市議会議長会研究フォーラムに参加をさせていただきました。

全国から、市議会議員が集い、研修を受ける機会は初めてのことで、雰囲気圧倒されることばかりの経験でした。

駅を降りてから会場までの動線は、殆どの人が市議会議員で、又、受け入れの市議会議員をはじめ職員総出、街の特産品、物産展示販売などの歓迎ぶりで驚きばかりでした。

長 浜 市 議 会

到着早々、会場の広さにびっくり、人の多さにびっくり、皆さんの積極的な姿勢に又、びっくりの連続でした。

今回の目的の片山善博氏の講演について、現在の地方議会の現状、議会改革の検証を主にいくつかの例を挙げ、教えをいただきました。

「躍動的でワクワクする市議会に」のテーマは胸に刺さる内容でした。

現在地方議会は、岐路にあること、それは2元代表制とは言うものの、首長の方に関心が集まることが多いが、地方自治法をしっかりと読み解くと議会が中心であることが示されています。

議会が物事を決める決定機関であること。決定したことを執行するのが執行機関であると言われていました。

2元代表制の中で地方議会の存在感が薄れてきていることも言われています。自治体には、色々な課題があり、自治体 DX、自治体 GX などがあるが、デジタル化を進めて何か変わったか、GX でエネルギーの転換が図られたか、X トランスフォーメーションにより既存のやり方、組織の体質、風土などまで変える必要がある。役所の透明化、説明責任能力などを高めることなど。あらゆるところで、アイデアを募り、それを生かすことで DX の成果を上げることが必要ではないか。

議会も議会改革を進めて、基本条例など変えても、実際に議会の環境までもが変わり活性化につながったかということこそ議会改革にはなってないのではないか。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

講演の中で、今の議会に欠けていることを挙げられていました。

一つ目は、議論が欠けているといわれ、確かに執行部より議案提案がされ、その事の議論があまりないのかと思います。

二つ目は、税の議論がされていないことの指摘をされました。

三つ目は、住民の声が聞けていないことを挙げられました。

三つのことを履行すると、執行部が提案されたことを、議会でチェックして
違った目で見えて、より良いものにしていく事が議会のあるべき姿ではないのか
と思う。

議案を丁寧に審議することが、住民へのわかりやすい説明になると思うし、
議員全員が意見の共有をして、執行部の提案をうのみにしないで、その議案の裏
を取る作業が必要となり、議会の権限を十分に発揮して、住民の信頼を得ること
が大事だと思う。

中々、できることではないが、その目標に少しでも近づけられるように議会が
機能できると良いと思います。

又、住民向けのアンケートを取ることも、住民の理解を得ることにもつながる
と思う。 他、様々な場面で、意見の収集を図ることもできると思います。

市長は、首長の権限の拡大をいわれていますが、議会との2元代表制を謳われ
るなら、住民にわかりやすく、議会にも十分な説明責任を図られ、同じ目標に
向かいたいと思います。